

役に立つ支援、無駄になる支援

【愛媛県】

愛媛県立松山中央高等学校

1年 矢野 菜奈美

今、この世界には様々な国際問題があります。そして、たくさんの国がその問題のために考え、いろいろなことを行っています。私たちが直接できることの中に募金があります。しかし私たちはその募金がどのように使われているかはほとんど知りません。貧しい人のために、病気で苦しんでいる人たちに、緑がない国のために...私たちが知っていることはこういった漠然としたことだけです。貧しい人のためにどのようにお金が使われているのか、緑を増やすためのどんなことに使われているのかなど細かいことは知りません。そんなことで国際問題のために何かしていると言えるのでしょうか。国際問題への取り組みは、それぞれの国の政府が中心となっています。そしてその政府の土台には私たちの意見、つまり私たちがいます。直接的な取り組みを行う政府の土台の私たちが何も知らなくていいのでしょうか。

こんな話を聞いたことがあります。政府がある国に最新の医療器具を送りました。しかしその国には電気が通っておらず、その器具を扱うことのできる医者もいませんでした。なのでその器具は一度も使われることなくほこりまみれになっておかれていました。また、食料の足りない人たちのために政府の人が畑を作り作物を植えました。しかし虫や病気の対処法を教えてなかったため、病気になってしまった作物は全てかれてしまい、知らずに食べた人は病気になってしまいました。

これらの失敗はその国のことをよく知らなかったことです。助けたい思いがあってもそれぞれの国についてよく知らなければ助けることはできません。または、これらの話のように役に立てたと勝手に満足しているだけになってしまうかもしれません。これでははっきり言って何の役にも立たないただの無駄になっています。そしてその費用に使われている私たちの募金や税金も無駄になってしまいます。無駄になっているかもしれない、何のために使われているかわからないことに募金しようとおもいますか。私は、しようと思いません。募金をするなら何に使うか、きちんと目的のわかるものに募金して、国際支援に役立ててほしいと思います。

今私たちは募金だけでなく、青年海外協力隊など現地に行ってお金ではない、コミュニケーションで支援をすることもできます。そのいいことは、知識の提供ができ、一時的な支援で終わることなく長い間助けることのできる支援をすることができることです。貧困の国への援助というと食料・物資の配達などのイメージがあります。どれも消耗していき定期的にしなければならぬことです。そんなことでは、貧困から逃れることはできず、一生援助を必要とする国になってしまうと思います。そこで、知識を提供することで援助することはその知識で自分たちですることができ、いつか貧困から脱出することができるかもしれません。そんなに簡単に脱出することはできないかもしれないけど、その時その時を援助するのではなく、先を見ることのできる援助が今必要で本当の支援だと思います。

これからも貧困などだけでなく、様々な国際問題が絶えることなく起こり続けると思います。その問題を解決しようとするたくさんの案がでてきます。その中で私たちは、どれが本当に役に立って、どれが無駄になってしまうのかよく考え、正しく無駄のない対処をしていくべきだと思います。そしてその土台となる私たちは国際問題から目を離さず、しっかり考えていきたいです。